

名大医学部学友時報

2018 5

目 次

1. 准教授就任	平川 仁尚	 (2)	7. 学友大会ご案内	 (9)
2. 人事トピックス	阿部 知伸	 (3)	8. 診療体制一覧表 (1)	 (10)
3. 会員寄稿	永井 美之	 (4)	9. 大学院新入生名簿	 (13)
4. プレスリリース	堀場 千尋	 (5)	10. 医学部新入生名簿	 (14)
5. 第 30 回日本医学会総会 2019 中部 役員からのご挨拶		 (7)	11. クラブ活動報告 名古屋大学医学部バドミントン部	 (15)
6. クラス会だより	緑々会	 (9)	12. 模擬病院開催のお知らせ	 (15)
			13. 編集後記	 (16)



かくのこのみのその
鶴友会館前庭 香 菓 園

橘会 (旧県立愛知医科大学予科) 会員寄贈

(古来橘は「ときじくのかぐのこのみ」と称し医に関係ある香り高い名木。
その名称を採って「香 菓 園」とした。)

准教授就任

国際保健医療学・公衆衛生学

ひらかわ よしひさ
平川 仁尚

<略歴>

平成10年 名古屋大学医学部卒業
 平成10年 土岐市立総合病院内科（研修）
 平成16年 名古屋大学大学院医学研究科博士課程（老年科学）修了
 平成16年 名古屋大学医学部附属病院老年科（医員）
 平成19年 名古屋大学医学部附属病院卒後臨床研修・キャリア形成支援センター特任助教
 平成26年 名古屋大学大学院医学系研究科国際保健医療学・公衆衛生学講師

<業績>

1. HIRAKAWA Y, Uemura MY, Chiang C, Aoyama A. Popular social media as a tool for enhancing community-based end-of-life care education for health care professionals: A formative study. Educ Gerontol 2018, DOI:10.1080/03601277.2018.14405141.
2. HIRAKAWA Y, Chiang C, Hilawe EH, Andoh H, Uemura K, Aoyama A. Formative research for the nationwide promotion of a multidisciplinary community-based educational program on end-of-life care. Nagoya J Med Sci 2017;79(2):231-241.
3. HIRAKAWA Y, Chiang C, Hilawe EH, Aoyama A. Content of advance care planning among Japanese elderly people living at home: A qualitative study. Arch Gerontol Geriatr 2017; 70: 162-168.
4. Kuzuya M, HIRAKAWA Y, Suzuki Y, Iwata M, Enoki H, Hasegawa J, Iguchi A. Association between unmet needs for medication support and all-cause hospitalization in community-dwelling disabled elderly people. J Am Geriatr Soc 2008;56:881-886.
5. HIRAKAWA Y, Masuda Y, Uemura K, Kuzuya M, Kimata T, Iguchi A. Differences in in-hospital mortality between men and women with acute myocardial infarction undergoing percutaneous coronary intervention (PCI) in Japan: Tokai Acute Myocardial Infarction Study (TAMIS). Am Heart J 2006;151:1271-1275.

学友会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。この度、平成30年2月1日付で名古屋大学大学院医学系研究科准教授を拝命し、着任いたしましたので、この場を借りてご挨拶申し上げます。

私は、本学を卒業後、土岐市立総合病院での3年間の研修を除いては、名古屋大学でキャリアの全てを歩んでまいりました。平成13年から、名古屋大学医学部附属病院老年科（現在の老年内科）で臨床に従事する傍ら、大学院博士課程において研究を始めました。そこでは、井口昭久教授（当時）のご指導のもと、高齢者の終末期の医療とケアの研究を主に行いました。当時は我が国では介護保険制度が導入された直後で、超高齢・人口減少・多死社会の到来が本格化し始めた頃でした。私は、鍼灸・マッサージ師が自宅に訪問して施術を行うサービスである訪問鍼灸・マッサージの、高齢者のクオリティ・オブ・ライフに与える影響に関する研究の成果をまとめ、博士号を取得しました。

平成19年には、老年科時代から研究指導を頂いていた植村和正教授（当時）にお声掛けいただき、卒後臨床研修・

キャリア形成支援センター特任助教に着任しました。そこでは、名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク（名大ネットワーク）事務局次長として、学部生のキャリア教育を担当しました。また、同時期、地域の病院と連携して医学生向けシミュレーション教育プログラムを開発し、本学のみならず、将来名大の関連病院での研修を考えている医学部生を引率し、医療系イベントを数多く開催しました。卒後臨床研修・キャリア形成支援センターでは、植村教授のご指導のもと、教育原理、教育プログラムの立案・評価・運営をはじめ、多くの経験を積むことができました。

平成26年からは、現在の所属である国際保健医療学・公衆衛生学教室の青山温子教授のご指導のもと、国内外の地域保健の研究・教育に取り組んでいます。具体的には、パラオ、バングラディシュ、エチオピアにおいて、現地の方々と一緒に開発した健康教育プログラムを実施し、効果の検証を行っています。ゲーミフィケーション、つまり教育に娯楽の要素を取り入れる新たな考え方もプログラムに取り入れています。ここでは、卒後臨床研修・キャリア形成支援センターで業務の一環として行っていた、教育プログラム・プランニングの経験が、現在の研究に活かれています。また、個人的には、この年までなかなかこれまでチャンスがなかった海外留学の疑似体験をさせていただいてると青山教授には感謝しているところです。国内においては、疫学調査の他、地域包括ケアシステムに関する研究も行っております。昨年、全国の一人暮らしの高齢者のエンド・オブ・ライフに関する質的調査を行い、日本の高齢者は終末期の決定を他者に委ねる傾向や厄介者になりたくないという理由で施設入所を希望する傾向が強いことを明らかにしました。

前世紀は大量生産・大量消費・大量廃棄の「量の時代」でしたが、21世紀は質的な豊かさを求める「質の時代」と言われます。公衆衛生の目的は、健康に悪影響を及ぼす環境や行動、社会的要因を取り除き、人々の健康状態とクオリティ・オブ・ライフ QOL を向上させることです。また、私のライフワークの一つである老年学・老年医学の目的も、高齢者の QOL の維持・向上です。今後、ますます質的研究の重要性は高まっていくものと確信し、より一層、この分野の研究、教育活動を精力的に行っていきたいと考えております。学友会の諸先生方には、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

人事トピックス

群馬大学大学院医学系研究科 循環器外科教授

あべ ともふ
阿部 知伸

<略歴>

1992 年 3 月 名古屋大学医学部医学科卒業
1992 年 4 月 名古屋第二赤十字病院研修医
1994 年 4 月 名古屋第二赤十字病院心臓血管外科医員
1999 年 1 月 カナダ国トロント大学心臓血管外科クリニカルフェロー
2002 年 1 月 米国コロンビア大学胸部外科オブザーバー
2002 年 4 月 豊橋市民病院心臓血管外科医長
2004 年 4 月 名古屋大学医学部救急部助手
2006 年 4 月 名古屋第一赤十字病院副部長
2009 年 5 月 社会保険中京病院心臓血管外科部長
2013 年 4 月 名古屋大学医学部付属病院胸部外科病院講師
2018 年 3 月 群馬大学大学院循環器外科教授

<業績>

1. Abe T, Usui A. The cannulation strategy in surgery for acute type A dissection. Gen Thorac Cardiovasc Surg., 2017; 65: 1-9. doi: 10.1007/s11748-11016-10711-11747. Epub 2016 Sep 11720.
2. Abe T, Uchida W, Narita Y, Usui A. Ultrasound visualization of the left circumflex artery by direct endocardial scanning of the mitral annulus during surgery. J Thorac Cardiovasc Surg., 2017; 153: 53-55. doi: 10.1016/j.jtcvs.2016.1008.1022. Epub 2016 Aug 1030.
3. Abe T, Oshima H, Narita Y, Araki Y, Mutsuga M, Fujimoto K, et al. Influence of the characteristics of Japanese patients on the long-term outcomes after aortic valve replacement: results of a microsimulation. Gen Thorac Cardiovasc Surg., 2015; 63: 260-266. doi: 10.1007/s11748-11014-10499-11742. Epub 2014 Nov 11722.
4. Abe T, Terada T, Noda R, Sakurai H. Aortocarotid bypass at the time of central aortic repair for type A acute aortic dissections. J Thorac Cardiovasc Surg., 2012; 143: 976-978. doi: 10.1016/j.jtcvs.2011.1010.1002. Epub 2011 Nov 1014.
5. Abe T, Usui A, Oshima H, Akita T, Ueda Y. A pilot randomized study of the neutrophil elastase inhibitor, Sivelestat, in patients undergoing cardiac surgery. Interact Cardiovasc Thorac Surg., 2009; 9: 236-240. doi: 10.1510/ictvs.2009.206193. Epub 202009 May 206115.

名古屋大学学友会の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、平成 30 年 3 月 1 日付けで群馬大学大学院循環器外科教授を拝命致しました。この場をお借りして謹んでご挨拶申し上げます。

私は平成 4 年の本学の卒業です。名古屋第二赤十字病院で心臓血管外科の初期の訓練をし、卒後 4 年目に Toronto General Hospital (TGH) に Tirone David 先生の手術を見学に行き異次元の手術に衝撃を受けました。臨床留学の望みを強く持ち、カナダの医師国家試験と英語の試験を通して卒後 6 年目の終わりから正規の Clinical Fellow として採用頂き、三年間を過ごしました。TGH の修練は三つの意味があったと思っています。一つは北米の標準的な心臓外科トレーニングを終了したということ。当時開心術年間 2800 例の施設で術者経験数はまたたく間に日本の 6 年間の数倍になりました。二つ目に北米の名門のアカデミズムの洗礼を受けたということ。最も知られた教育病院の一つでアカデミックなアサインメントをこなし学生を指導し素晴らしい朋友たちを得ました。そして最後に、天才 Tirone David 教授に直接手術をご指導頂いた、ということ。David 先生は誰もが世界

で最も手術が上手い心臓外科医の一人と認める方で、僧帽弁、大動脈基部などで数々の新しい術式を確立され、勤勉で、実直な倫理観をお持ちでした。難しい症例ばかりが集まっており、複雑な手術が信じられないスピードで完遂してゆくのを助手するのは他の施設では得られない経験でした。弁膜症の手術で、あらゆる臨床判断で、そして職業倫理において決定的な影響を受け、私が最も尊敬する恩師です。

帰国してからは比較的若い歳から手術を任せて頂き、それとともにアカデミックな発信を続け後進を指導することは私のような経歴の人間の義務とも思っており、市中病院と名古屋大学を行ったり来たり、という風でした。研究については弁膜症の長期予後が私の興味の中心で、また海外でトレーニングを受け日本でプラクティスしているものとして欧米と日本の違いというのが切実なテーマでした。メタアナリシスやシミュレーションの手法は欧米と日本を繋ぐ有用なブリッジングツールではないか、というのは常に私の中にある発想で、独特な傾向を示す本邦の弁膜症長期予後シミュレーションした一連の業績があり、胸部外科学会の優秀論文賞などを受賞しています。

東京駅から上越・北陸新幹線の、とき、あさま、といった呼称の列車に乗り込みます。北へ、上野、大宮を通過し、首都圏の populous な景色が途切れた先に、ごつごつした異様な山容が現れます。カルデラ湖もある複製火山、赤城山、そしてこれもカルデラ湖を頂き多くの側火山をもつ榛名山。エルヴィン・ベルツが最大の賛辞を送り、徳富蘆花、竹久夢二が愛し、萩原朔太郎を生んだ群馬の地です。県の人口 200 万と埼玉県北部も含み、群馬大学の診療圏は 300 万といえます。

自分がこの地で教授職を拝命し手術を行い後進を指導するとはつい先日まで想像したこともなく、群馬大学の報道も上田裕一名誉教授・長尾能雅教授のご尽力は知っていましたが、遠い国のニュースのように聞いていました。着任してよりこちらで多くの先生方から大変率直な期待のお言葉を頂き、その熱意にこちらがたじろぐこともしばしばです。内村鑑三が高崎藩の士族の出で、故郷の上州人を絶句に詠んでおり、その最後の二行は以下の様です。

唯だ正直を以て万人に接し 至誠神に依りて勝利を期す

「最後に上州人の正直さは神に評価され勝利を得るだろう。」もちろん鑑三のユーモアですが、多くの群馬大学の先生方が現在の状況を改革の機会ととらえて無私に奮闘しているのを目の当たりにして、その正直さが実を結ぶ日が来るのを、この詩のように願っている自分に気づきます。

浅学非才であります。群馬大学の循環器外科の発展に力を尽くして参りたいと思っております。名古屋大学同窓の先生方には、倍旧のご指導ご鞭撻、そしてご支援を心よりお願い申し上げます。